

箕輪町森林ビジョンの 方向性

令和4年10月

経過

○町の森林整備

・箕輪町第4次振興計画(後期計画H22-27)基本計画第2節 森林整備の推進

現状と課題	施策の展開	平成26年度数値目標
本町の民有林面積は5359haで内人工林率は約68%で、林齢は36~50年生が約76%を占めており、今後15年以内に確実に間伐を実行する必要があります。先送りできない時期となっています。	健全な森林を育成するため森林資源の齢級配置から見て後期計画期間中の間伐を実施する目標面積を650haとします。	間伐面積 5年間で650ha

→実績 368ha (うち保育間伐80ha)

・箕輪町第5次振興計画(後期計画)基本計画第2節 林業の振興

現状と課題	施策 林業の振興
外国産材との価格競争、高齢化や後継者不足により林業従事者が減少し、荒廃林地が増加しています。計画的な維持管理、地域林産物の利用促進、効率的な林道等の整備などを推進し、地球温暖化防止、水源涵養、土砂災害防止など森林の多面的機能が発揮できる健全な森林の保全・活用が必要です。	森林は、林産物の生産、多面的な機能の発揮を通して地域住民の生活と深く結びついており、ゼロカーボン実現の観点からも町内面積で多くを占める森林の整備や緑化を強化し、温室効果ガスの吸収源対策を推進するとともに、「箕輪町森林ビジョン」を策定し計画的な森林整備を進め、水源かん養や土砂災害防止などの森林のもつ公益的機能を十分に発揮させるための施策を推進します。 また、森林組合や森林所有者をはじめ関係団体と連携して、産業として成り立つ林業を目指します。

経過

○町の森林整備

- ・第4次振興計画としては間伐の目標面積（650ha）を設定、実績は368ha。
- ・第5次振興計画では間伐の目標面積は設定せず、
 - ・箕輪町森林ビジョンを策定し計画的な森林整備を進める
 - ・森林のもつ公益的機能を十分に発揮させるための施策を推進
 - ・産業として成り立つ林業を目指す ことを明記。

実質的には大局的な森林整備の方向性を持たず、町有林の定期的な間伐・松枯れ対策としての樹種転換、地元主体の間伐等の補助、区要望、災害対応等、時宜に併せた取組を行って来たところだが・・・

○森林経営管理制度開始（2019年度）、森林環境譲与税の交付

➔制度を利用した、私有林かつ人工林（1,031ha）の適正な管理の考え方とアプローチについて、町としての考え方を持つ必要が出てきた。

経過

○森林の価値の再構築（ゼロカーボンとSDGsという新しい価値）

2021年6月 2050年に二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを目指した
「長野県ゼロカーボン戦略」の策定

2022年7月 「町地球温暖化対策実行計画及びアクションプラン2022」の策定

戦後植林され60～80年を経過、伐期を迎える町内の人工林について、

- ・ 経済林として刈って販売する価値
- ・ 水源涵養や国土保全の機能を果たす価値
- ・ 生活に紐づいた里山の恵みを果たす価値 といった従来の価値に加えて
- ・ ゼロカーボンやSDGsなど地球環境保全に資する価値 が加わり

→ 森林ビジョンとして改めて
「山と町民の果たす役割について考え直し、合意する」必要がある

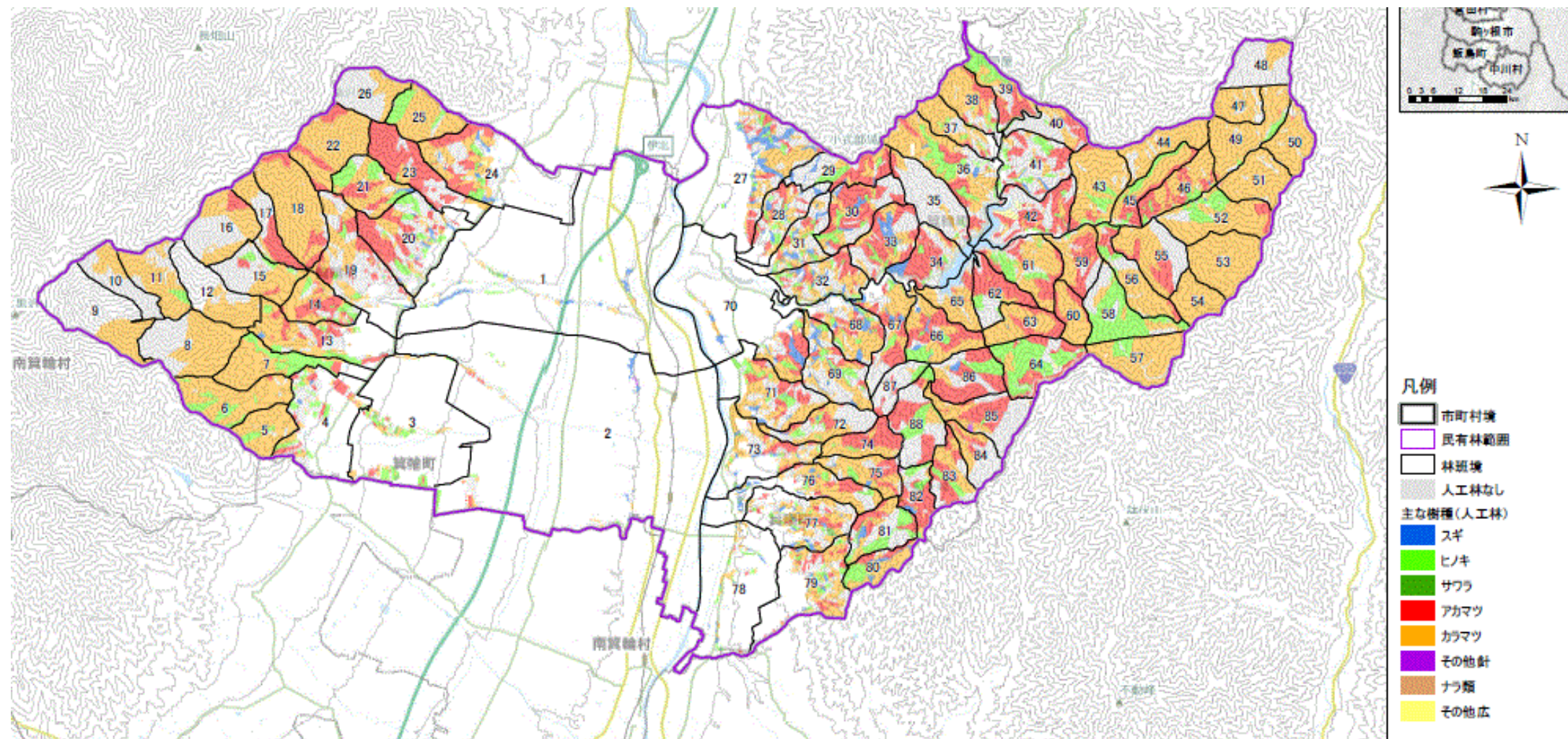
経過

○町の森林の構成と特徴

町内の森林の太宗である私有林は5,364ha、うち天然生林1,744ha（33%）、人工林は3,619ha （67%） がある。私有林の構成はアカマツ・カラマツが7割を占め、広葉樹が2割弱、全国的に多い杉・ヒノキ類は1割程度という特徴的な構成である。

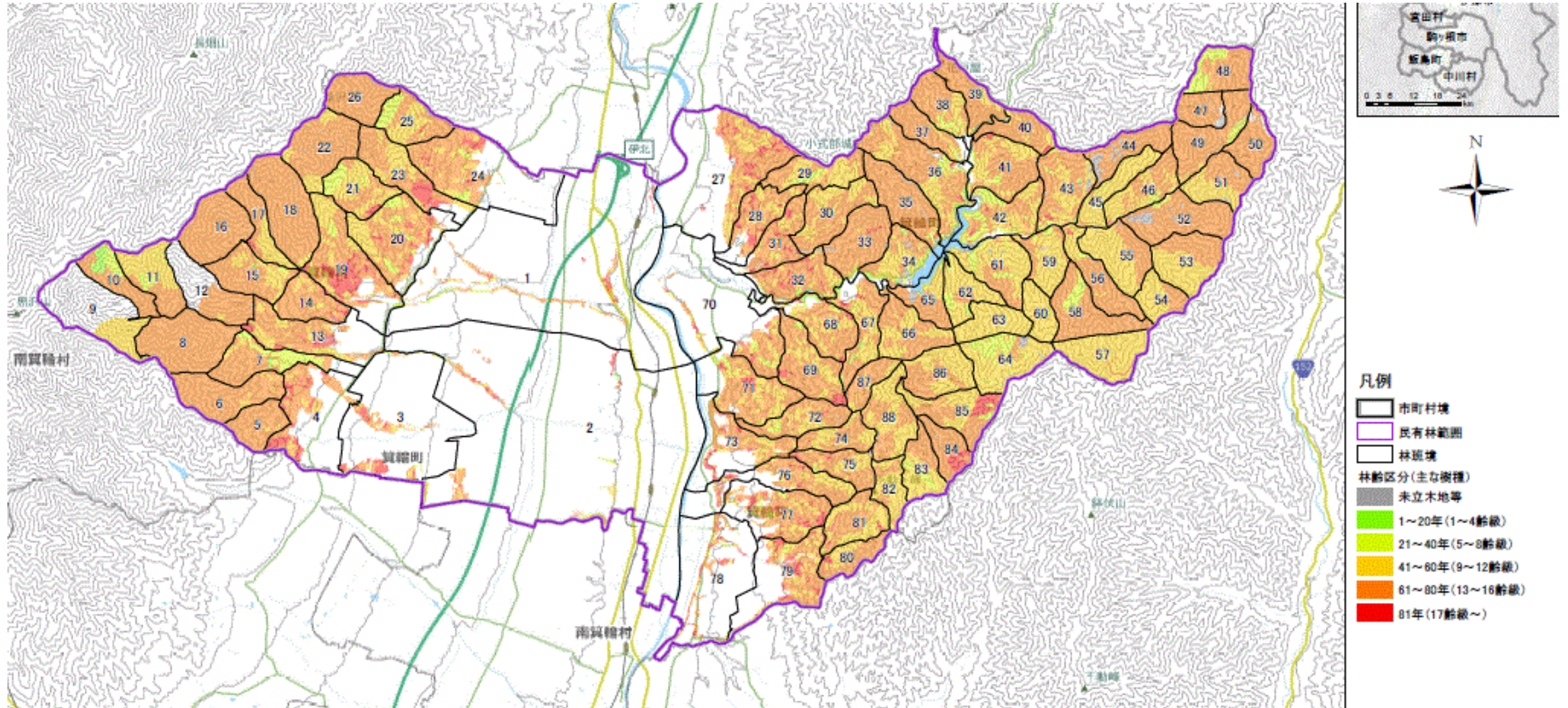
アカマツ	カラマツ	杉・ヒノキ類	広葉樹	合計
1,678ha	2,091ha	549ha	993ha	5,311ha
31.6%	39.4%	10.3%	18.7%	

人工林 林相区分図



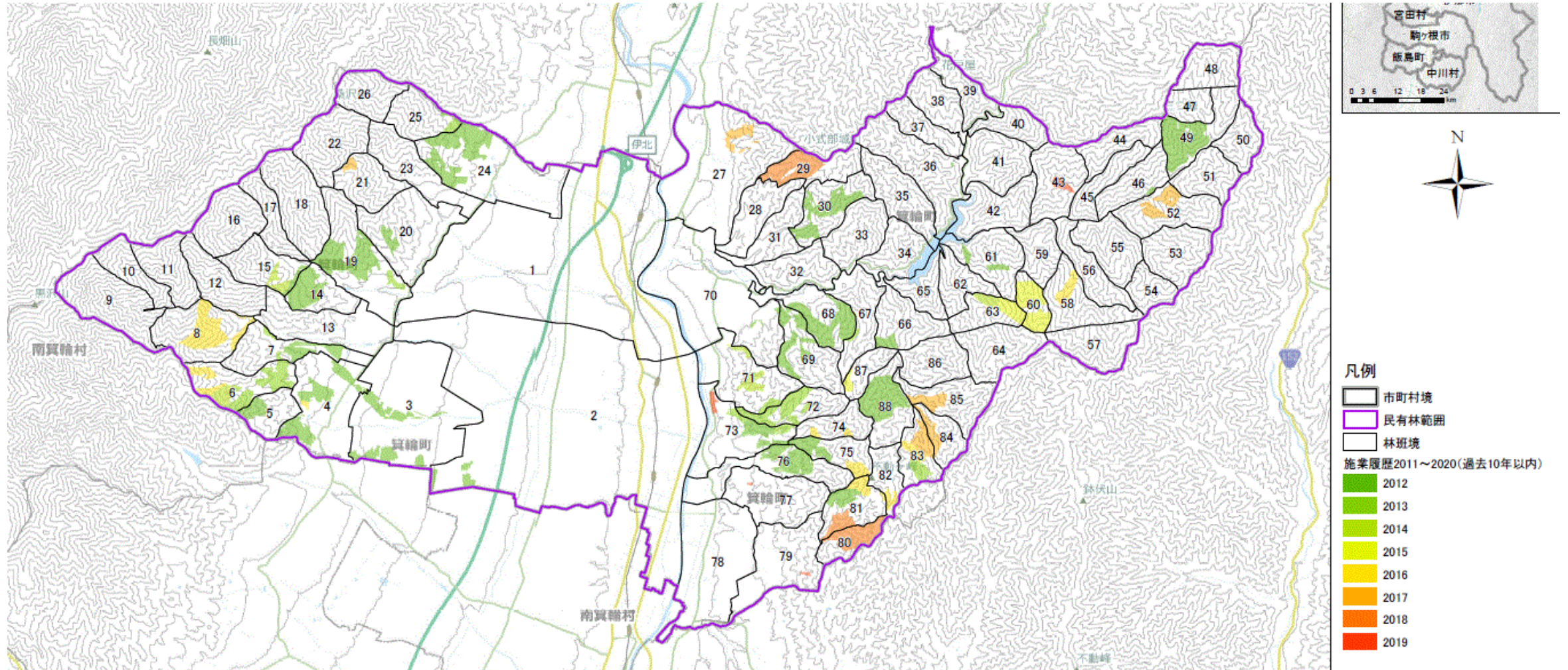
管理の必要な人工林は3,619haであり、樹種はアカマツ・カラマツが7割を占める

林齢区分図



林齢は41~80年生が中心。人工林の多くは2~3回の間伐を施され、伐期を迎えている

施業履歴のある森林 (2012-2019)



過去10年間の施業は、比較的搬出しやすい場所が中心

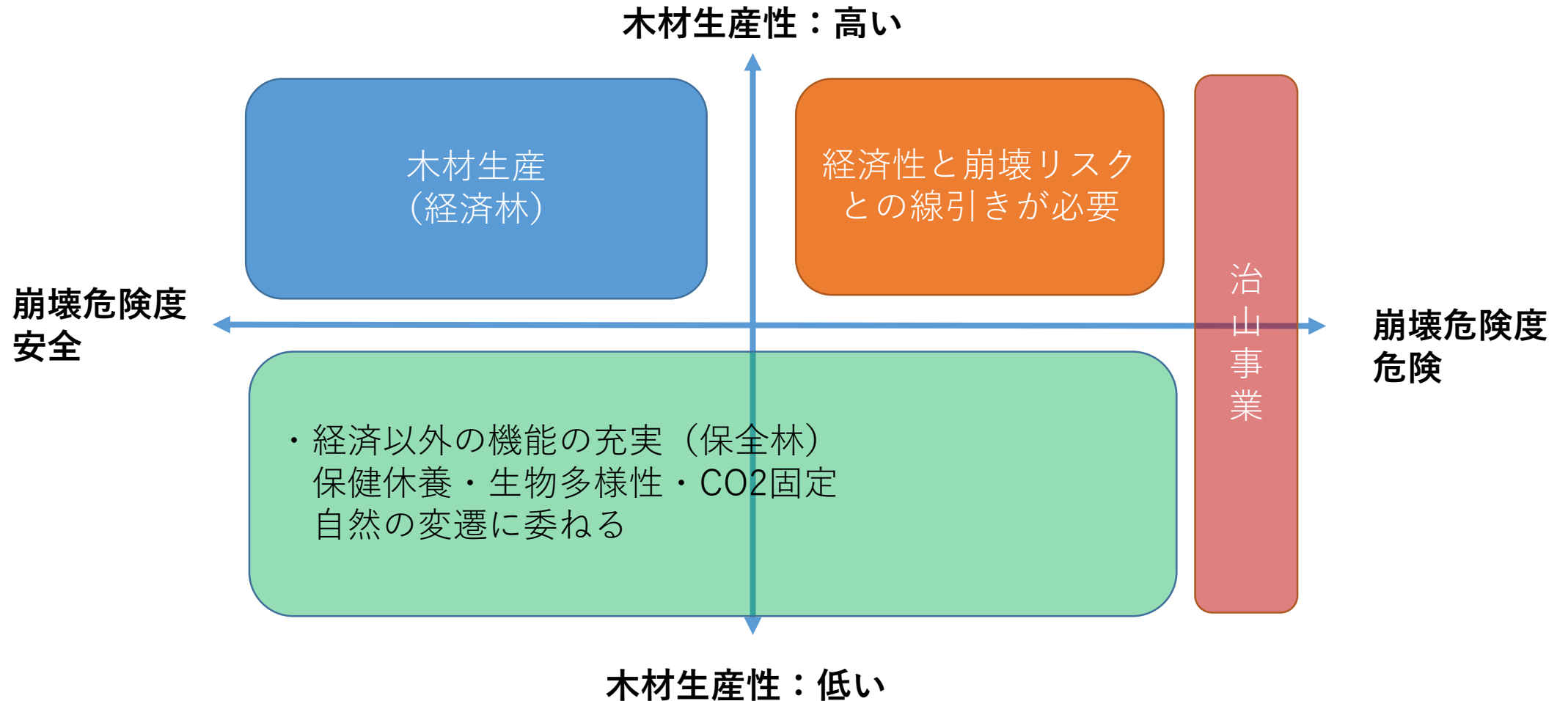
検討にあたっての基本的な考え方

- 経営管理制度で対象としている森林だけでも約1,000ha、町全体で5,364haある
- 森林を「適正管理＝間伐」という考え方で施業することは、時間的にも財政的にも困難。
- ➔分析により現在の町の森林の状況を掴む。その上で真に必要な森林整備とは何かを抽出する。
- 地滑り・土石流・表層崩壊などが起きる場所は、過去の経過や地形の判読から特定しやすい。
- そういった場所に手を付けないなど、「マイナスをしない」仕組みが必要。
- ➔防災的に対処すべき個所を優先したゾーニングを確立。
- アカマツ・カラマツが7割の当町において、保全的に管理する森林の省力的かつローコストな管理手法を見出したい。
- ➔保全的に森林管理を行う技術的課題をクリアしたい。

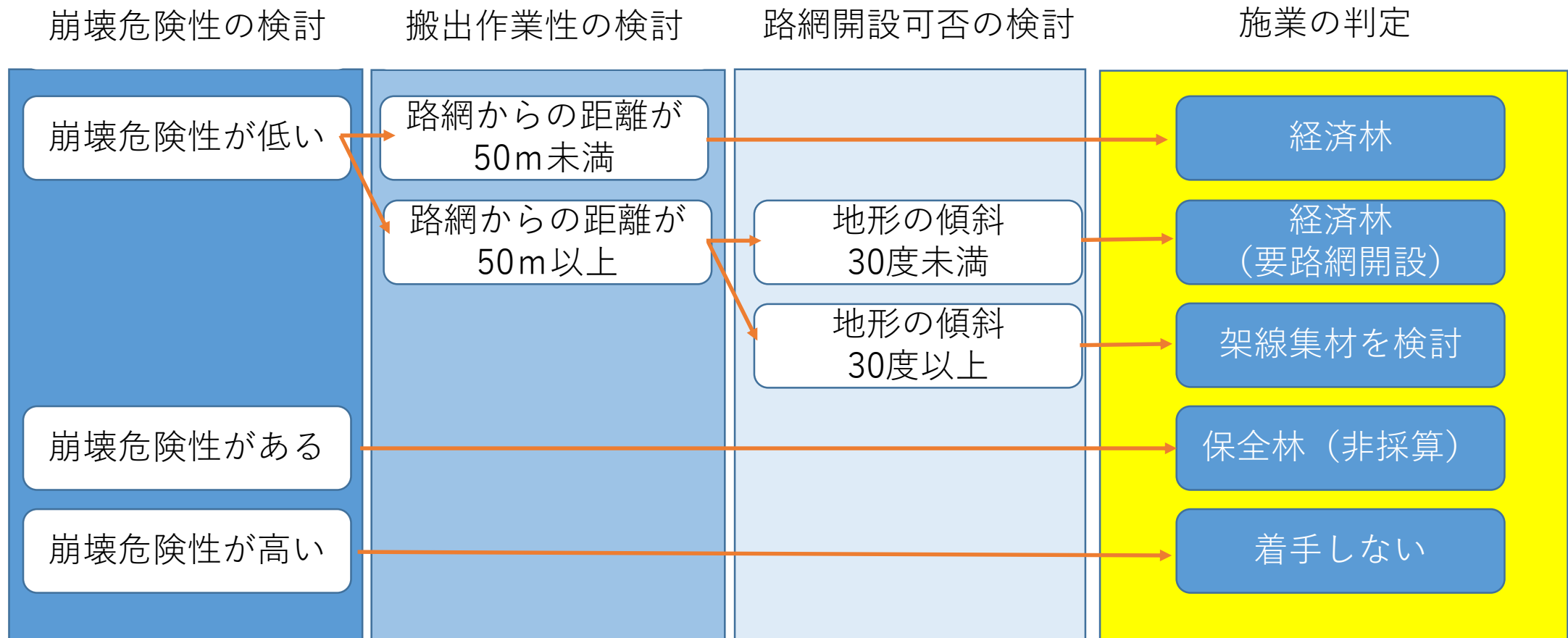
どんな考え方と取り組み方で山と向き合っていくかを考えるのが、森林ビジョン。

(計画年数は50年で10年ローリング)

森林経営判断における意思決定の考え方（例）



森林ゾーニングのフローの考え方（例）

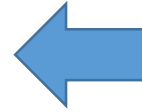


検討の進め方

R4.12~3月 箕輪町森林ビジョン策定事前調査研究業務委託

①【市町村整備事業実施のためのゾーニング】（業務委託）

- ・ 林業コンサルタントによる町の森林データの研究
- ・ CS立体図とSHCを用いた、森林の崩壊危険性の研究

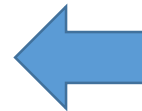


基本方針（災害リスクを抑える）

- ・ 森林整備が必要なエリアの特定
- ・ 手を加えてはいけないエリアの特定

②【整備事業実施のための手法の研究】（業務委託）

- ・ アカマツ・カラマツ林の保全的管理の研究
- ・ 防災機能を上げる林道づくりの研究
- ・ 鳥獣害を減らす森林づくりの研究／松枯れに対する対応の研究
- ・ ゼロカーボンへの対応（経済林の特定）

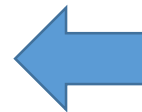


基本方針（EBPM的に知見を集める）

- ・ 人工林は必ず間伐という考え方？
- ・ 洗い越しなどの手法、山を崩さない道づくりなど
- ・ 山の上に広葉樹を増えるなど

③【関係者へのヒアリング】（一部業務委託）

- ・ 財産区／林業事業体（森林組合・山人・森の座など）
- ・ 生産森林組合／猟友会、鳥獣関係者（熊森協会）、耕作者
- ・ 建設業協会／町民アンケート



基本方針（各主体の課題を集める）

- ・ 森林整備が進まない要因の特定
- ・ 森林への関わりしろとして求められるものの特定

検討の進め方

R5.4～9月 ビジョン策定期間

「森林ビジョン策定業務委託」として会議運営及び報告書作成に関する委託

【委員会での協議】（業務委託）

- ・市町村整備事業のゾーニングについて
- ・市町村整備事業の進め方について
- ・森林の境界問題について
- ・個人林の管理問題について
- ・林業振興策について
- ・森林との触れ合いの場の創出について
- ・林道整備・維持管理について
- ・鳥獣対策について . . .

【予算審議を経てR6から施策の実行】

- ・意向調査➡市町村整備事業 の実行
- ・優先順位を付けた上でビジョンの具体的
施策の実行 . . .

森林に関わる主体の分類とその目標（仮説）

主体	目標
① 森林所有者	：自らの森林をきちんと管理する
② 町民・町外者	：箕輪の森林に親しむ。森林を通じて町と関わりをもつ
③ 財産区	：自らの森林をきちんと管理する。林業を行い木材を供給する。
④ 林業事業体	：町内の森林整備を推進する
⑤ 市町村	：公益的機能（特に防災）を高める森林づくりの音頭を取る。境界明確化を推進する。

■ 目標達成時の成果（案）

○森林の公益的機能の視点から

- ・地域の防災力の増、有害鳥獣の被害減、適切に管理された森林の増、森林に親しむ機会の増

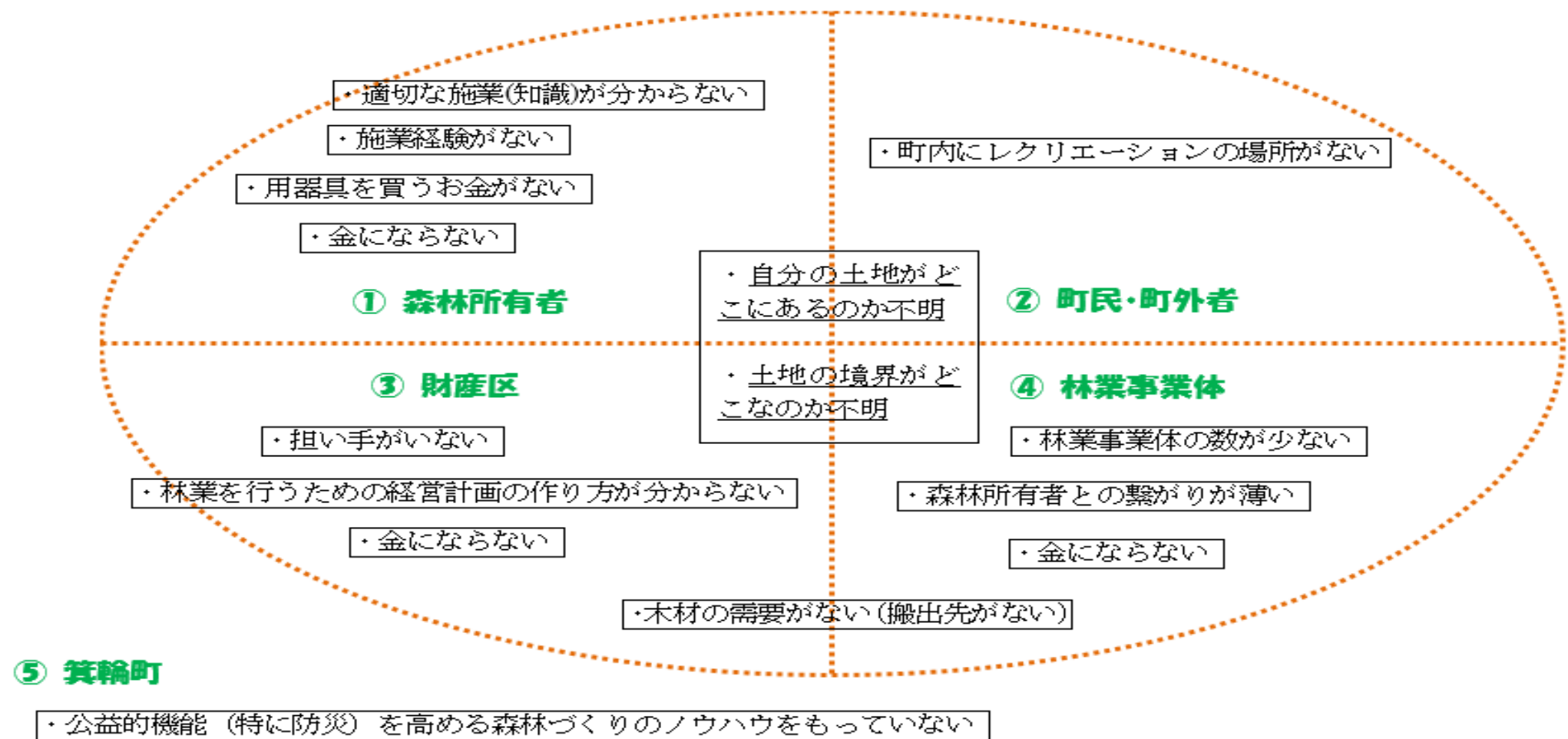
○林業の視点から

- ・木材供給量の増、地域産業の活性化、林業従事者の増、町内の木材利用の増

○双方の視点から

- ・森林の境界明確化、財産区の活性化

各主体の目標とボトルネックと思われるもの（仮説）



ボトルネック解消策と思われるもの（仮説）

施策の優先順位の基準（案）：①市町村しかできないか、②公益性の高さ、③期待度の高さ、④インパクトの強さ、⑤費用対効果

